

## 2016 年度事業計画

### 1. 会員

会員を増やすための努力をするとともに、会員数が減少しても運営できる財務体質を目指す。

### 2. 会議

2.1 2016 年度定時社員総会 (2016 年 6 月, 都内にて開催)

2.2 理事会 (年 4 回以上開催)

2.3 役員会 (年 6 回以上開催)

2.4 評議員会 (年 1 回開催)

### 3. 事業活動

#### 3.1 機関誌発行

4 冊の機関誌を編集刊行する。採録論文の一部は、機関誌のサイバー増大号の形で電子的に出版する。現在の解説論文や特集号の充実を維持する。

読者モニタ制度を続け、編集作業の参考とする。学会員が投稿しやすい機関誌を目指し、査読から掲載までのさらなる迅速化を図る。

2015 年 1 月より導入された非会員による論文投稿の制度を続け、掲載論文の充実を図る。

編集委員長が任期満了のため、田中二郎編集長から千葉滋編集長に交代する。

#### 3.2 大会

第 33 回大会を以下の要領で開催する。

日 時： 2016 年 9 月 6 日 (火)~9 日 (金)  
併設イベントは 9 月 6 日 (火) に開催予定

会 場： 東北大学 片平キャンパス

大会委員長： 大堀淳 (東北大学)

運営委員長： 上野雄大 (東北大学)

プログラム委員長： 光来健一 (九州工業大学)

プログラム副委員長： 松崎公紀 (高知工科大学)

広報委員長： 山田浩史 (東京農工大学)

登壇発表申込締切： 2016 年 7 月 8 日 (金) (予定)

予稿原稿締切： 2016 年 8 月 5 日 (金) (予定)

#### 3.3 講習会

学会会員サービスとしてチュートリアル・大学基礎講座を実施し、また、大会併設企画、および大会企画の立案・実施に協力する。2015 年度の実績も踏まえ、今後の実施の方向性について検討するとともに編集委員会との連携なども模索する。

#### 3.4 研究会

次の 8 研究会が活動する。各研究会の活動予定は下記の通りである。

(1) 「プログラミング論」研究会 (主査：住井 英二郎)

未定

(2) 「マルチエージェントと協調計算」研究会 (主査：櫻井 祐子)

未定

(3) 「インタラクティブシステムとソフトウェア」研究会 (主査：塚本 昌彦)

ワークショップ 1 回開催

情報処理学会インタラクシオン 2017 に協賛

エンタテインメントコンピューティング 2016 に協賛

- (4) 「ソフトウェア工学の基礎」研究会 (主査：杉山 安洋)  
ワークショップ 1 回開催 (2016 年 12 月 1-3 日)  
コンピュータソフトウェア誌の「ソフトウェア工学の基礎」特集号 (予定)
- (5) 「インターネットテクノロジー」研究会 (主査：藤本 衡)  
未定
- (6) 「ディペンダブルシステム」研究会 (主査：前田 俊行)  
未定
- (7) 「ネットワークが創発する知能」研究会 (主査：中島 秀之)  
未定
- (8) 「実践的 IT 教育」研究会 (主査：砂原 秀樹)  
大会にて研究会セッションを開催 (予定)  
シンポジウム開催 (予定)

### 3.5 広報

本学会 Web ページ，会員メーリングリスト等の電子的な広報手段を整備・活用し，  
有益な情報を効果的かつ適時に会員に提供する．

### 3.6 賞の選考

フェロー，功労賞，基礎研究賞，研究論文賞，解説論文賞，高橋奨励賞を選考する．

## 2016 年度予算

2016 年度の単年度予算としては収入 37,450,000 円，支出 38,100,000 円を計上している。

### 1. 予算方針

本学会の財務収支は，法人化と支出削減努力によって，収入が支出を上回る状況で推移している。しかし，2014 年 12 月の会員数（正会員：855 人，学生会員：76 人，準会員：23，団体会員：7 人，賛助会員：5 人 10 口）と 2015 年 12 月の会員数（正会員：845 人，学生会員：63 人，準会員：21，団体会員：7 人，賛助会員：5 人 10 口）を比較すると会員数は減少傾向にあり，今後の財務状況を注視していく必要がある。特に，職場からの退職や退官によって，退会者の数は，増加していくことが予想され，新規の会員の獲得および学生会員から正会員への昇格を，より一層進めていく必要がある。2013 年から新規会員獲得のための一つの方策として，実施している本学会で生まれたアイデアから未来を描く講演企画 FTD ( Future Technology Design ) を今年度も実施する予定である。本年度は，この FTD を大会期間中に実施することを予定しており，講習会業務費 800,000 円の内，200,000 円を FTD に当てる予定である。学生会員の減少に関しては大会の発表資格として会員であることを課さなくなったことも影響していると考えられる。今後，学生会員の獲得の方策を検討する必要がある。

### 2. 各費目の計上理由

入会金・会費収入予算は，前述の 2015 年 12 月 22 日時点での正会員 845 名，学生会員 63 名，準会員 21 名，団体会員 7 団体，賛助会員 5 名 10 口を基に見積もっている。研究活動費に関しては，研究論文賞 2 件，ソフトウェア論文賞 1 件および高橋奨励賞 2 件分の予算および，各表彰の際に手渡すトロフィー等の表彰アイテムの予算を計上している。大会については，2015 年度の決算から収入，支出を見積もり，大会単体では 25 万円の黒字となる予算としている。機関誌については，サイバーページのボリュームも含めて昨年度と同程度に見積もっている。機関誌業務費については，機関誌に付随する発送費・発送手数料，著者負担金請求手数料等を計上している。講習会については，昨年度と同程度で 4 回の開催を予定するとともに，大会の期間中に FTD を開催する予算を計上している。委託手数料については，ホームページ管理者および会計管理のための税理士への委託料を計上している。また，消費税および住民税の概算額を租税公課に計上している。事務局費については，案内通知，督促状等，会員管理・会計等の年間業務委託費を計上し，事務局変動費として，機関誌，資料の保管料やその他事務局に委託する費用を計上している。基礎研究賞事業については，昨年度と同じ収支を予定している。研究会事業については，各研究会の参加費等による収入と，研究会実施のための支出を計上している。会員への還元や研究会活動の活性化を目的として，これまでの繰越金を支出することを予定しているため，全体としては支出超過の計画となっている。